

- 1 不真正不作為犯 江見健一
- 2 因果関係 西野吾一
- 3 正当防衛における「急迫性」 遠藤邦彦
- 4 自招侵害と正当防衛 三村三緒
- 5 過剰防衛、防衛の意思 加藤 陽
- 6 責任能力の判断——妄想の影響が問題となった事例 浅香竜太
- 7 窃盗症と責任能力・量刑 友重雅裕
- 8 行政犯の故意 向井香津子
- 9 租税脱犯の故意 中島経太
- 10 危険運転致死傷罪における主観的要件（アルコール、薬物摂取類型以外）——「人又は車の通行を妨害する目的」、「赤色信号又はこれに相当する信号を殊更に無視し」の各意義—— 島戸 純
- 11 危険運転致死傷罪（アルコール・薬物摂取類型） 蛭原 意
- 12 不能犯 川田宏一
- 13 中止未遂 上岡哲生
- 14 支配型共謀の共同正犯 平城文 啓
- 15 共同正犯と従犯の区別 小池健治
- 16 共謀関係の解消 佐々木一夫
- 17 罪数の評価 馬場嘉郎
- 18 性犯罪における「被害者供述の信用性」 福島直之
- 19 不同意性交等罪における「同意しない意思を形成し、表明し、全うすることが困難な状態」の有無 中川綾子
- 20 強制性交等罪における「被害者の同意」及びその誤信 中村光一
- 21 強制わいせつ罪における性的意図について 薄井真由子
- 22 贈収賄罪における「金品の授受」の有無 熊代雅音
- 23 贈収賄罪における「賄賂性」 駒田 秀和
- 24 殺意の認定 下津健司
- 25 暴行・傷害罪における「有形力（物理力）」の有無・内容 坂口裕俊
- 26 暴行・傷害罪における「故意」の有無・内容 行方美和
- 27 保護責任者遺棄致死罪——客体・保護責任・不保護・故意・因果関係 平出喜一
- 28 業務上過失致死傷事犯における注意義務の前提となる事実——「予見可能性」 岩崎邦生
- 29 過失運転致死傷事犯における注意義務の前提となる事実——「回避可能性」 江口和伸
- 30 業務上過失致死傷事件における予見可能性 後藤有己
- 31 間接事実としての盗品の近接所持 平塚浩司
- 32 窃盗罪における「占有」の有無 吉井隆平
- 33 恐喝罪と強盗罪との区別 戸前左近
- 34 電子計算機使用詐欺罪における「虚偽」性 井下田 英樹
- 35 詐欺罪における故意——特殊詐欺の受け子 高橋康明
- 36 すり替え窃盗における実行の着手時期 近道暁郎
- 37 詐欺罪における「人を欺く」行為 丹羽敏彦
- 38 背任罪における「図利加害目的」 品川しのぶ
- 39 盗品等有償取得罪における「盗品の知情」 河本雅也 高森宣裕
- 40 常習累犯窃盗罪 青沼 潔
- 41 痴漢及び盗撮の常習性 國井恒志
- 42 薬物事犯における「薬物の認識」 染谷武宣
- 43 薬物事犯における「使用の認識」 板津正道
- 44 薬物事犯における「営利目的」 佐伯 恒治
- 45 薬物輸入罪における「薬物の知情性」 長瀬敬昭
- 46 道路交通法の法定速度違反 村越一浩
- 47 犯罪収益等に関する事実認定 近藤和久
- 48 DNA型鑑定 宮田祥次
- 49 前科証拠や類似事実による事実認定 大西直樹
- 50 「被告人」の自白の信用性 河畑 勇
- 51 「共犯者」の供述の信用性 足立 勉
- 52 「目撃者」の供述の信用性 渡部 市郎
- 53 被害者の供述の信用性 松田 道別
- 54 「年少者」の供述の信用性と司法面接 市原志都
- 55 先行手続の違法と証拠能力 増田 啓祐
- 56 覚醒剤事犯における「被疑者の留め置き」 辛島 明
- 57 防犯カメラ画像による認定 守下 実
- 58 取調べ録音録画の実質証拠としての利用 安東 章
- 59 控訴審における事実誤認審査 楡井英夫
- 60 犯人性に関する総合認定 大野 洋
- 61 保釈における罪証隠滅と逃亡のおそれ 福家康史
- 62 再審請求 細谷泰暢
- 63 裁判官の事実認定に求めるもの——検察官の立場から主に証拠採否について—— 入江淳子
- 64 事案の個別性——弁護人の立場から 宮村啓太
- 65 「検察官の立場から」、「弁護人の立場から」を受けて 遠藤邦彦

事項索引
判例索引

FAXでのご注文は、切りとらずにそのままご送信ください。FAX 03-3233-2871

申込書

* 刑事事実認定重要判決 50 選〔第 4 版〕

申 込

部

ご所属名

庁・道・府・県

署・隊・課

貴社の個人情報の取扱いに同意の上、申し込みます。

ご担当者名

(TEL :

)

備考欄

個人情報の取扱いについて 株式会社立花書房 個人情報管理者 総務部長

利用目的 お客様の個人情報は商品発送・サービス実施とご案内・お問合せへの回答に利用します。【第三者提供】本人の同意がある場合又は法律に基づく場合を除き、第三者に提供しません。
委託 利用目的の達成に必要な範囲内で取扱いの一部を委託することがございます。【開示請求・問合せ窓口】本人からのお申出により、個人情報の利用目的の通知・開示、内容の訂正・追加・削除、利用の停止又は消去、第三者への提供の停止・提供記録の開示に対応します。弊社窓口 (info@tachibanashobo.co.jp) までご連絡ください。【提供の任意性】個人情報の提供は任意ですが、必要な項目を頂けない場合、お申込みをお受けできない場合がございます。



立花書房

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-2

TEL:03-3291-1561(代表) <https://tachibanashobo.co.jp>